

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		文化会館		文化会館		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	文化会館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	5	文化会館費
	細目	1	文化会館運営業務	細々目	1	文化会館運営業務	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
当文化会館は、平成6年4月に開館以来、芸術文化の中核施設として多くの方の利用をいただいている。特に、大ホールの施設・舞台環境は、専門家からも高い評価を受けている。	市民に優れた芸術文化の環境を提供するため、施設・設備面の適正管理を行う。施設の老朽化も進んでおり、適切な維持管理が必要となっている。利用しやすい会館づくり、質の高い舞台環境の提供を行い、芸術文化の振興に努める。	大ホール、小ホール等の貸館運営、日常の会館維持管理、など。	
活動指標		成果指標	
文化会館におけるイベント等の開催件数		文化会館利用者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
1,000(件)	1,111(件)	52,000(人)	52,693(人)
			成果指標の到達度(B/A)
			101.3%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	16,368	16,360,356	財(源割内合訳)	国庫支出金	(30.1)	15,000
	委託料	18,626	17,654,008		県支出金	( )	
	工事請負費	14,713	12,546,450		地方債	( )	
	報酬	1,938	1,931,000		その他	(18.1)	6,000
	その他	1,364	1,295,770		一般財源	(51.8)	32,009
合計		53,009	49,787,584	合計		53,009	49,787,584
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		2.65	9,218,412				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
会館利用者に気持ち良く利用していただき、次回も利用していただけるように運営面や施設面で気を配っているが、施設・設備面においては老朽化のために利用者に迷惑をかけてしまうことがある(例:雨漏りがする、冷暖房が効かない、照明が暗い、など)。一方、会館使用料や空調使用料は他市の会館や市内の他施設と比較しても低価格に設定している。	多くの市民に文化会館に足を運んでいただき、次回も利用したいと思っていただくためには、施設維持管理を適正に行い、施設を常に整えておくとともに、運営面においてもスマートな対応によって利用者の満足度を上げる必要がある。また、今後は設備改修のための特定財源を確保する意味においても、会館使用料及び冷暖房料使用料の改定(増額)が必要である。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート				部署名	文化会館			No	2		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興			2	芸術文化の振興			1	芸術文化を育む環境づくり	
事業名	青少年劇場・巡回芸術劇場公演事業										
予算費目	款	10	教育費		項	5	社会教育費		目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費		細々目	11	文化振興関連経費		会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )				予算種別	継続		経常		

## 1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市内の児童・生徒が芸術文化に触れる機会を充実させるため、山口県主催事業である本事業を共同主催で実施。現在は、市内の小学校を対象に年2回(2校)で実施しているが、中学校では実施できていない。		対象：市内児童・生徒 意図：市内の児童・生徒を対象に、芸術文化に触れてもらい、豊かな感性を育む環境をつくるため。		平成17年度に決裁、校長会での説明・了承を得た順番に従い、毎年、市内小学校2ヶ所において、演劇やコンサート等の学校での鑑賞機会を提供するため、青少年劇場・巡回芸術劇場の公演を開催。公演内容については、学校側が事業メニューから選ぶ。山口県主催事業で事業経費の一部を負担。実施校の児童のほか、保護者等地域住民も鑑賞可能。	
活動指標			成果指標		
開催に必要な予算額			公演回数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
500,000(円)		334,625(円)		66.67	
				%	
				3(回) (小学校2校、中学校1校)	
				2(回) (小学校2校)	

## 2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	24	12,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ( )		
	負担金・補助及び交付金	363	322,625		県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
合計		387	334,625	一般財源 (100)	387	334,625	
				合計	387	334,625	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	314,000				

## 3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

## 4 ACTION

課題	改善策
中学校では実施しておらず、中学校からも実施の要望が出ている。	それぞれの小学校、中学校で在校中に1回は必ず鑑賞等ができるようにするためには、小学校では6年に1回、中学校では3年に1回は巡回しなければならない。また、複数校の児童、生徒を1か所に集めて鑑賞してもらうためには、移動に伴う予算または学校側の理解(学校での費用負担等)が必須となってくる。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	3
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	市民文化祭開催事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	市民文化祭開催経費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	14	市民文化祭開催経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
各種文化団体と連携し、質の高い芸術文化に触れる機会及び市民の芸術文化活動の場を提供するために開催。	市民及び市内各種文化団体を対象に、市民の自発的な芸術文化活動の活性化を図り、市内の芸術文化の向上につなげるために実施。	毎年10月から11月にかけて、11部門(川柳大会、日舞大会、市民音楽祭、華道展、菊花展、展覧会、邦楽大会、市民茶会、洋舞演劇大会、俳句大会、短歌大会)を開催。部門ごとに会議を開催し、日程、内容等協議しながら実施。		
活動指標		成果指標		
開催部門数		参加者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
11(部門)	11(部門)	3,000(人)	2,500(人)	83.33%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	36	36,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ( )		
	需要費	163	109,971		県支出金 ( )		
	役務費	76	76,000		地方債 ( )		
	委託料	98	71,280		その他 ( )		
					一般財源 (100)	373	293,251
合計		373	293,251	合計		373	293,251

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	2,613,323

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
市民文化祭は、現在11部門で開催している。部門によっては自発的に実施しているものもあるが、事業内容や組織編成により自発的な実施が難しい部門もある。	全部門が自発的に実施できるように手法や内容等を検討する必要がある。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		文化会館		文化会館		No	4		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	自主文化事業(文化会館主管事業)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
平成22年度より全国公募により文化会館館長を民間から迎え、館長の考案した事業を文化会館独自の自主文化事業として新たに企画し実施。	幅広い年代の人を対象に、それぞれの時代に応じた事業を企画、実施することによって、市民の文化芸術に触れる市の文化振興を図るとともに、文化会館への来場者を増やし活性化を図る。	文化会館において、胎教に良い音楽を毎回異なるグループで演奏し、妊婦やその家族に聴いてもらう「マタニティプチコンサート」、乳幼児とその保護者を対象に音楽を使って楽しくスキップをする「おんがくであそぼう」、60才前後の人を中心としたバンドのコンサートといった独自の自主文化事業を実施。入場料を徴収し、特定財源に充てる。	
活動指標		成果指標	
実施回数		参加者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
15(回)	17(回)	2,650(人)	1,315(人)
			成果指標の到達度(B/A)
			49.62
			%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	130	110,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )	200	265,000
			一般財源 ( )				
合計		130	110,000	合計		200	265,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1	3,299,859

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
マタニティプチコンサートの参加者が少ない。	周知が必要である。また、マタニティとなると対象が限定されてくるため、マタニティに限らない実施方法を検討する必要がある。乳幼児より参加できるコンサートを企画する。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		文化会館		文化会館		No	5		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	自主文化事業(文化協会委託事業)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
文化協会が事業を計画し、文化会館および市民館等を会場に、ピアノマラソン大会や少年少女合唱祭等を含む各種文化講演会やコンサート・演劇等の自主文化事業を開催。	主に市民を対象に、芸術文化を鑑賞する機会を作り、市民の豊かな感性を育てるとともに、新たな文化を創意する。	山陽小野田市文化協会が中心となり、事業を計画し、文化会館および市民館等を会場に、文化講演会やコンサート・演劇等の自主文化事業を展開。		
活動指標		成果指標		
実施回数		参加者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
9(回)	11(回)	4,500(人)	4,263(人)	94.7%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	3,000	2,393,228	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		3,000	2,393,228	
合計		3,000	2,393,228	合計		3,000	2,393,228

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1	5,398,529

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
事業の周知方法として、告知物(ポスター、ちらし等)の掲示、配布、市ホームページへの掲載、文化協会会員への案内等行っているが、集客に限界を感じている。告知方法を改善するとともに、世代、性別を問わず、気軽に足を運べる事業を企画実施していく必要がある。	23年度より、これまで山陽小野田市文化協会に委託していた自主文化事業を市の直営とし、今後の当市文化事業の方向性を定め、それに沿った事業を企画実施していく。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	市民館	No	1
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
16 多彩な芸術文化とスポーツの振興	2 芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名 市民館管理運営事業(文化ホール)			
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 市民館運営業務	細々目	1 市民館管理運営費
事務区分(根拠法令)		自治事務	( )
		予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
市民館文化ホールは、市民の文化活動や芸術の発表の場として昭和48年に完成した。多くの市民・団体等に利用されているが、開館後39年が経過しているため施設の維持管理費に多くの経費がかかる。	多くの市民が安全・快適に文化・芸術活動等の発表・練習、または芸術を鑑賞できる場所を提供する。	条例・規則などにに基づき施設の公平・公正な貸出事務を行う。また、日頃から館内点検を心がけることにより、なるべく経費をかけないように早めの施設整備を行う。	
活動指標		成果指標	
運営に必要な経費 ※目標値(前年度実績)		文化ホール利用者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
13,158(千円)	40,114(千円)	45,440(人)	60,041(人)
			成果指標の到達度(A/B) 132 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	6,918	6,813,831	財(源割内訳)	国庫支出金	( )	
	役務費	484	469,200		県支出金	( )	
	委託料	6,882	5,780,144		地方債	( )	
	使用料及び賃借料	425	290,298		その他	(9.7)	4,224
	工事請負費	29,302	26,760,174		一般財源	(90.3)	39,787
合計	44,011	40,113,647	合計		44,011	40,113,647	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		3	3,358,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
利用希望者の行事が重なった場合、会場確保が困難な場合がある。準備を要する行事については、運用規定で6か月前から使用申請を受け付けているが、施行規則では、申請時期が1か月前と短い。また、施設の老朽化に伴い随所に不良箇所が出てきており、修繕料がかかる。	貸館業務としては、使用申請時期を統一することが望ましい。また、施設の維持管理については、なるべく経費をかけないように日頃から施設の保守点検を頻繁に行う。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	市民館	0	No	2
-----	-----	---	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	市民館管理運営事業(文化ホール舞台吊物装置更新)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	4	市民館費
	細目	1	市民館運営業務	細々目	1	市民館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
文化ホールの舞台は、照明などの吊物装置によって演出効果を高め、様々な芸術表現が可能となる。そのため、非常に重量のあるものが頭上に吊っており、それを頻繁に上げ下げする。構造的には非常に危険なものである。法的には規制はないものの、県内のどの公立文化施設も、年数回の吊物点検をし定期的な吊物機材の更新を行っている。		文化ホールの舞台を利用する市民の安全性が高まり、より安心・快適に利用できる。		吊物を年に数回点検を行い、年次的に更新する。	
活動指標			成果指標		
維持管理に必要な経費 ※目標値(前年度実績)			文化ホール利用人数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(A/B)	
0(千円)		7,035(千円)		132	
				%	
				45,440(人)	
				60,041(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	工事請負費	7,140	7,035,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		7,140	7,035,000	
合計		7,140	7,035,000	合計		7,140	7,035,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.08	31,400				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
舞台吊物は、構造的には非常に危険なものであるため、年数回の吊物点検が必要である。また、改修には、多額の経費がかかる。	現行年1回の点検をしているが、点検回数を増やす。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート		部署名	社会教育課	文化振興係	No	1
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進
事業名	きららガラス未来館運営事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	9	きららガラス未来館経費	目	9	きららガラス未来館経費
	細目	1	きららガラス未来館運営業務	細々目	1	きららガラス未来館管理経費
					会計種別	一般会計
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続 経常

## 1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
ガラス作品等を作成できる体験学習施設を建設し「ガラス工房のあるまちづくり」を推進することにより、市民のふれあい・交流の場として、また本市の産業の礎となった窯業を伝承しつつ新しい文化の創造を図り、生涯学習社会の構築を目的とする。イベントや体験等を通して利用者が増加している。	市民がガラス文化を身近なものとして感じられるような体験等の機会を提供し、豊かな感性を養成する。	指定管理者による施設の管理運営を委託。	
活動指標		成果指標	
運営に要する予算額		利用者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
23,230,000(円)	23,229,250(円)	10,000(人)	9,110(人)
			成果指標の到達度(A/B)
			91.1%

## 2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	512	511,350	財(源割内合訳)	国庫支出金( )		
	役務費	27	26,900		県支出金( )		
	委託料	22,691	22,691,000		地方債( )		
					その他( )		
			一般財源(100%)		23,230	23,229,250	
合計		23,230	23,229,250	合計		23,230	23,229,250
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	1,884,000				

## 3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

## 4 ACTION

課題	改善策
リピータが増えて利用者が増加している。広く市民に、体験等のすそ野を広げることが課題。	イベントの工夫(第5回現代ガラス展との連携)出張体験等の拡大。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	1
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(文化協会)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
市民の幅広い芸術文化活動への参加や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実につなげるため、市内で活動する約180の文化団体が加入する文化協会の育成・支援を行う。	対象：文化協会 意図：市民の幅広い芸術文化活動の展開や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るため、市内の文化団体の運営を補助し、育成支援する。	文化協会事務局を文化会館内に置き、職員が事務局を兼ね、協会の運営を支援する。文化団体の協会への加入について指導し、育成支援する。		
活動指標		成果指標		
文化団体(文化協会)支援に要する予算額		文化協会加入団体数、個人加入者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	成果指標の到達度(B/A)
990,000(円)	990,000(円)	賛助・団体加入数:200、 個人会員数:600(人)	賛助・団体加入数:186、 個人会員数:491(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金補助・交付金	990	990,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		990	990,000	
合計		990	990,000	合計		990	990,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,671,323

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
加入団体はそれぞれ自主的かつ活発に活動を行っているが、協会自体の活動については、補助というよりは行政主体となっており、自主性を促す必要がある。 今年度、個人会員については、会費未納者を職権退会させ整理したので、全体の会員数は激減したが、加入者は増えている。しかしながら、団体は加入数よりも退会数が多くなっており、加入団体の減少が目立つ。	平成23年度より事務局員を協会独自で雇用し、行政から独立させ、協会の自主的な運営をしてもらう。 個人、団体、賛助会員の増加のため、文化協会に加入するメリットを充実させていかなければならない。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	2
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(龍王伝説保存会)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
平成13年に開催された山口きらら博で発表した創作舞踊「龍王伝説」を継承・発展させるため、平成17年に結成された龍王伝説保存会を育成・支援する。	市民の幅広い芸術文化活動の展開や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るため、龍王伝説保存会事務局を文化会館内に置き、職員が事務局を兼ね、保存会の運営を補助する。	発表(市民文化祭 洋舞・演劇大会)に向けて役員会を開催し、練習を行う。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
会議、練習回数		発表回数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	50 %
7(回)	7(回)	2(回)	1(回)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金、補助金、交付金	162	162,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		162	162,000	
合計		162	162,000	合計		162	162,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	314,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
山口きらら博で発足した会であるが、継続・発展させるためには発表回数を増やすことが必要である。また、多くの課題はあるものの、いずれは事務局を保存会に移し自立するように検討をしなければならない。	市民文化祭 洋舞・演劇大会以外に、単独でも発表会を開催するよう促す。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	0	No	3
-----	------	---	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(山陽小野田少年少女合唱団)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
平成18年の国民文化祭において、文化会館で開催された「少年少女合唱祭」に出演する地元出演団体として、その前年に結成された。国民文化祭終了後も文化会館自主事業として毎年開催している「少年少女合唱祭」にホスト団体として参加するなど、地域文化振興に貢献しており、その運営について補助し、団体の育成・支援をする。	少年少女合唱団の運営を補助し、団体の継続・発展を支援することにより、国民文化祭を契機に芽生えた市内の児童合唱の輪を広げ、地域文化の活性化を図る。	合唱団の事務局を文化会館内に置き、職員が事務局を担当する。		
活動指標		成果指標		
練習回数		発表回数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
48(回)	48(回)	6(回)	9(回)	150%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳		0	0	財(源割内訳)	国庫支出金	( )	
					県支出金	( )	
					地方債	( )	
					その他	( )	
			一般財源		( )	0	0
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	839,680

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
国民文化祭を契機に結成された団体であるが、いつまでも市が事務局を担当するわけにはいかず、自立を促す必要がある。	平成22年に第1回の単独演奏会を開催し、成功裏に終了した。平成23年国体終了後、事務局を移行し自立させる。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	4
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(市内学校関係)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
山陽小野田市教育文化振興基金の助成事業に関する要綱により助成を行っていたが、対象の文化団体に小・中学校及び高等学校の芸術文化団体がなかったため、平成21年度に助成対象として、市立小・中学校及び市内の高等学校の芸術文化団体を追加。また、中学校の学校教育全般における文化活動の振興・発展を図ることを目的とした「山口県中学校文化連盟」の会費を負担し、活動を支援する。	対象：市立小・中学校及び市内の高等学校 市立小・中学校及び市内の高等学校の芸術文化団体の芸術文化活動を支援し、幅広い芸術文化活動の展開を図る。	市立小・中学校及び市内の高等学校の芸術文化団体が、一定の条件を満たした大会への参加経費の一部を助成。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
対象学校数		助成件数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	75 %
22(校)	22(校)	8(件)	6(件)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)	
支出内訳	負担金補助・交付金	276	172,300	財(源割内訳)	国庫支出金			
					県支出金	( )		
					地方債	( )		
					その他	( )		
			一般財源		(100)	276	172,300	
合計		276	172,300	合計		276	172,300	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)					
		0.05	415,323					

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	5
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	芸術文化活動の顕彰事業(児童生徒書道展)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	經常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
芸術文化の活性化を図るため、芸術文化に顕著な功績があった個人・団体等を顕彰する。	市内在住または在園・在学の園児、児童、生徒を対象に、書道作品を募集。審査・顕彰することで、芸術文化活動の推進及び活性化を図る。	市内在住または在園・在学の園児、児童、生徒を対象に、12月から1月にかけて書道作品を募集。市内書道団体の代表者等を審査員とし、審査した後、1月下旬から2月上旬にかけて応募の全作品をおのだサンパークに展示し、市民ほか多くの来場者に鑑賞してもらう。表彰状・参加賞を授与。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
広報、啓発活動等の回数 周知する幼・保・学校の数		対象者(4-15才)に対する参加者(出品者)の割合 1,229人 / 7,250人		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	94.16 %
4回(HP、広報紙等) 幼・保24園、学校19校	4回(HP、広報紙等) 幼・保24園、学校19校	18(%)	16.95(%)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	50	50,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
	需用費	42	33,138		県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		92	83,138	
合計		92	83,138	合計		92	83,138

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.1	628,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
芸術文化活動の顕彰事業については、現在は「児童生徒書道展」のみを実施している。芸術文化に顕著な功績があった個人・団体等を顕彰し、市の芸術文化活動の推進及び活性化を図るためには、他の顕彰事業も検討する必要があるが、顕彰内容、審査方法等課題が多い。	他の顕彰事業についても実施を検討する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	No	6
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	ガラス文化の発信事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務費	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
「ガラスのまち山陽小野田」をアピールするため、本市出身の現代ガラス作家である故竹内傳治氏の作品と、平成13年度から3年ごとに開催している現代ガラス展での入賞作品を、体験学習施設「きららガラス未来館」と協力しながら市内の公共施設や商業施設に展示する。 また、第5回現代ガラス展開催に向けて、推進委員会等を開催するなど準備を行う。	対象：市民、市所有のガラス作品 意図：市民はもとより、山陽小野田市を訪れる人に「ガラスのまち山陽小野田」とアピールし定着させる。	山陽小野田市のガラス文化を発信するため、故竹内傳治氏の作品や、第1回現代ガラス展からの受賞作品に動産保険をかけ、市内の公共施設等に展示しているが、作品の増設や入れ替え等を行い、市内のいたるところでガラス作品が目にとまるようなまちにしておく。 施設への展示を示した「ガラスマップ」を作成し、展示箇所に備え付ける。		
活動指標		成果指標		
展示に要する予算額		展示箇所数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
500,000(円)	322,860(円)	19(箇所)	18(箇所)	94.7%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	保険料	490	322,860	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		490	322,860	
合計		490	322,860	合計		490	322,860

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	415,323

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
ガラス作品を展示するにはある程度の広さが必要となるので、展示施設の理解が必要。「ガラスのまち山陽小野田」をアピールする手段の一つであることを理解してもらい、施設利用に支障の無いような作品展示をする。また、展示作品によっては、照明を必要とするものもあるし、増設するには展示台も不足している。	現在の文化振興担当だけではガラス作品の定期的な入れ替えは困難であるので、課内部で人員調整し定期的な入れ替えを行うよう努める。展示に必要な展示台や照明機材は年次的に揃えていく必要がある。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	文化会館	0	No	7
-----	------	---	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化振興ビジョン策定事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ( )			予算種別	新規	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
合併以降、新市の文化振興ビジョンが策定されていない。第一次総合計画に基づき、市民の幅広い文化芸術活動を支援するとともに、質の高い文化芸術に接する機会の提供や環境の整備、文化財の保存、活用等について、その具体的な指針となる文化振興ビジョンを策定する必要がある。	平成23年度末を目標に、文化振興ビジョンを策定し、市の文化振興の方針を明らかにする。	教育委員会の附属機関として「文化振興ビジョン検討委員会」を設置する。平成22年度から23年度にかけて協議・検討を重ね、答申をいただく。その後、パブリックコメント等を経て、平成23年度末を目標に文化振興ビジョンを策定する。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
文化振興ビジョン検討委員会 会議開催回数		文化振興ビジョン検討委員会 会議進捗度		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	109 %
6(回)	6(回)	50(%)	54.5(%)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報酬	60	44,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ( )		
					県支出金 ( )		
					地方債 ( )		
					その他 ( )		
			一般財源 (100)		60	44,000	
合計		60	44,000	合計		60	44,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.55	2,714,646				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
文化振興の内容は広範囲であり、まちづくりの要素も多く含んでいるため、関係部署との連携が必要である。	関係部署との連携をすすめる。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--